# Otaru Harbor CAFE - 小樽港第3号ふ頭水上カフェ計画

日本近代を支えた重要港湾、小樽港第3号ふ頭を市民の場へと再生する「港(みなと)を巷(ちまた)に」— 歴史と街のアクティビティを活性化させる、羅針盤のような建築プロジェクト



小樽港湾の中でも最も歴史の古い第3ふ頭の基部に位置する

## 運河を越えて、港(みなと)を巷(ちまた)に

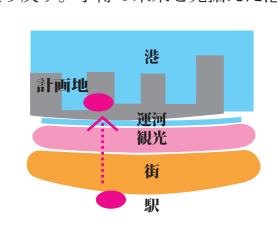
物流の拠点から、市民の日常生活の拠点へと

港湾全体の再開発計画の最初の起爆剤となることが期待されているプロジェクトです

#### 港(みなと)を巷(ちまた)に

現在の小樽は有名な運河沿いににぎわう観光地が続くものの、駅からつながる市民 の街と港が分断される構造を持っています。

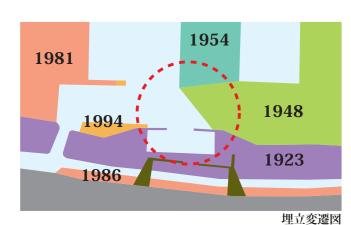
物流拠点としての役割を終えつつある**港(みなと)**を、市民の**巷(ちまた)**として 取り戻す。小樽の未来を見据えた港湾再開発計画が市民主導で動き出しています。





### 「はじまり」の場所

第3号ふ頭の基部は大正12年、小樽港湾の中でも**最も初めに整備され**、徐々に現在の形に発展していきました。そこには船入澗(荷卸し場)の石積みが残っています。この水面の界隈が**小樽港の起源**であり、繁栄の中心、みなとまち小樽の心象風景を形作ってきた巷(ちまた)でした。「**はじまり**」から「はじめる」新しい街づくりです。





「はじまり」の起爆剤

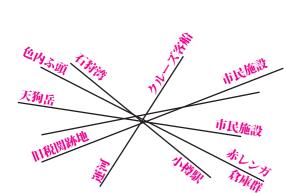
水上カフェは、**港湾振興プロジェクトの起爆剤**となるよう計画されています。 「はじまり」の場所に、ふ頭が自分たちの居場所であるという意識を持つきっかけ となるように、水上に浮かぶ小さなカフェが構想されました。この水上カフェは、 港と運河をめぐる**遊覧船の発着場**としても機能を持ちます。





記憶と風景の羅針盤

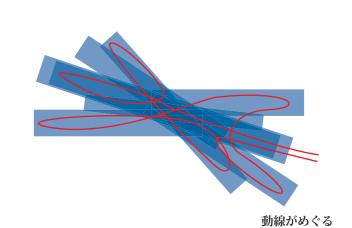
北運河、色内ふ頭からかつて伸びていた桟橋、旧税関跡地、遠く石狩湾を望み、背景には天狗岳が見える。ここは小樽に住む人びとの**原風景の交差点**です。建築は、それらの記憶と風景をゆるやかに意識づけるように考えました。小さな建築に、最大限の方向性を埋め込むように、**記憶と風景の羅針盤**のような構成を考えました。

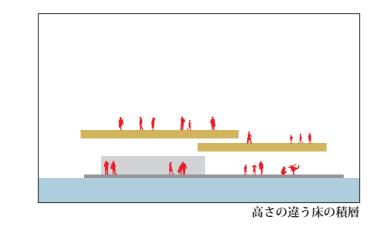




## 距離を折りたたみ、生み出すしかけ

少しずつ違うレベルの床が、角度を変えながら積層します。 それぞれの床をグルグルとめぐることで、小さな建築の中に**最大限の距離**を内包し、 違う場所の体験を最大化する。何度訪れてもその都度違う発見があるような、人々 の**動きを誘い**飽きさせないしかけです。





## 下地を準備する活動

本プロジェクトは、「みなとまち小樽映像プロモーションプロジェクト」と並行して開始されました。映像によるプロモーション活動によって、そこで起こりうる場面を市民で共有しながら、実務的な設計、都市計画変更等々の作業に繋げていくことが想定されています。(映像作品を模型の横で展示しています)







## 「港湾振興プロジェクト」とは?

プロジェクトは小樽商工会議所が主催し、市の港湾計画と調整を行いながら、港再開発における市民要請の醸成を目指しています。 「港を巷に」というテーマを掲げ、港を物のための場から人のための場へと変えるため様々な活動を継続しています。今後数年をかけて港湾全体の都市計画変更の手続きにも関与していく予定です。

2015年8月22日には、100名を越す参加者を集めた公開シンポジウムが開催されました。着実に、確実に、市民意識の高まりが見

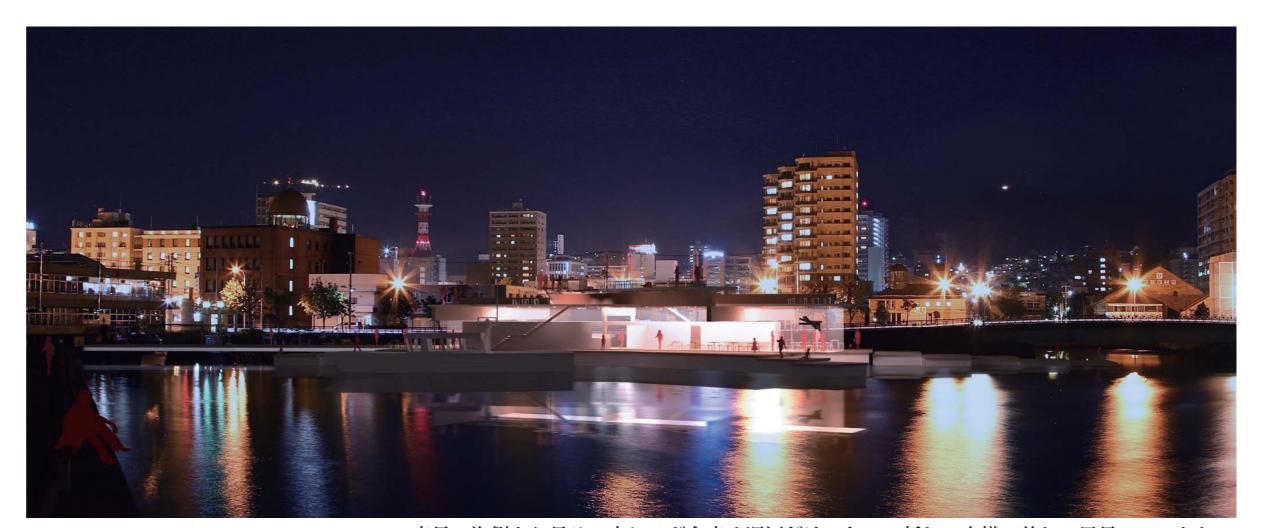


## CAFE PHANTOM

公開シンポジウムに引き続き、8/28 ~ 9/22 の期間限定で社会実験 の場としてコンテナを再利用したカフェがオープンしました。 市民の誰もが知っている場所。けれど市民の誰もが普段利用できな い場所。海運の象徴であるコンテナを再利用し、居場所を作ることで、ここが自分たちの場所になりえるという意識を醸成していく。

カフェは、多くの人でにぎわっています。小樽に暮らすプロジェクトのコアメンバー達による、パブリックに開いた小さな活動の継続、 集積が続いています。

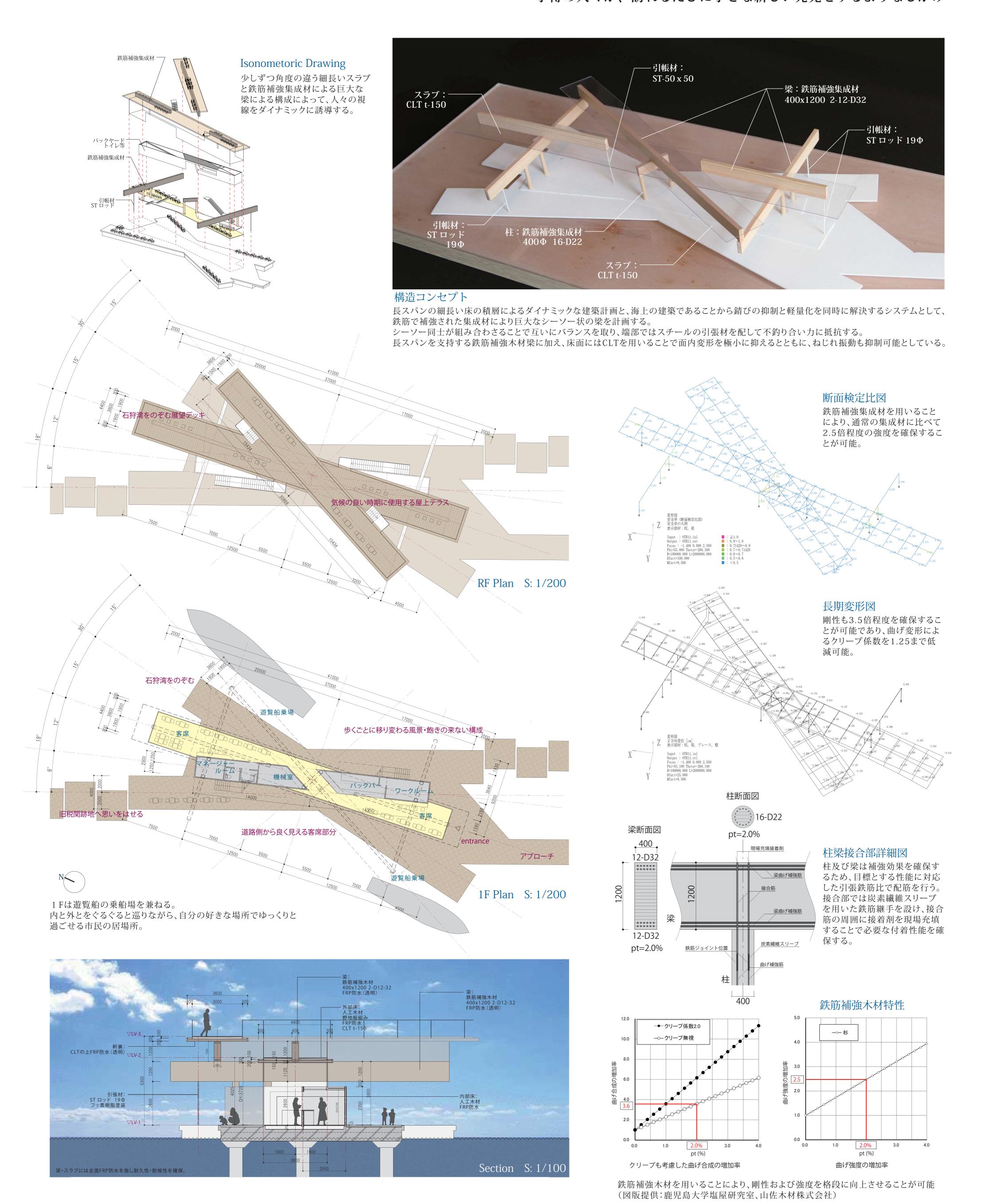




夜景-海側より見る-赤レンガ倉庫や運河だけでない、新しい小樽の美しい風景の一つとして 人が主役の新しい灯りの風景

## 距離を折りたたむ、小さく豊かな空間と構造

シンプルな構成の中に最大限の距離を折りたたみ、それぞれの場所の体験を最大化する 小樽の人々が、訪れるたびに小さな新しい発見をするようなしかけ



## 記憶と風景の羅針盤

北運河、色内ふ頭からの桟橋、旧税関跡地、遠く石狩湾を望み、背景には天狗岳 記憶と原風景の交差点に、多様な矢印を埋め込むように



アプローチ側から見る—交差する巨大な梁に導かれるダイナミックな空間構成 様々な方向に視線が誘導される



石狩湾を望む屋上テラス 湾に流れ込む風を感じる場所

DATA

DATA 計画名称:Otaru Harbor CAFE - 小樽港第3号ふ頭水上カフェ計画

建築用途:カフェ、遊覧船乗場 事業主体:港湾振興プロジェクト

工事予定:2018-主要構造:木造+一部S造

主要材料:図示 建築面積:165㎡

延床面積:165㎡(客席数:40席(内部)+40席(外部))

プロデュース:福島慶介/N合同会社

建築設計:山雄和真/GINGRICH(ギングリッチー級建築士事務所)

構造設計:坪井宏嗣/坪井宏嗣構造設計事務所

資料提供:鹿児島大学塩屋研究室+山佐木材株式会社(構造関係) 制作協力:みなとまち小樽映像プロモーション委員会



内観―海を間近に感じる跳ね出しの床